

編集後記

40周年企画である記念式典・記念パーティー、記念誌の統一コンセプトは“バトンタッチ”です。特に記念誌では、30周年記念以降、理科大ソフトボール部に起こった最大の変化である、丸山監督のご勇退・柳田監督の就任を特集として取り上げました。丸山監督慰労会・柳田監督激励会、丸山先生最終講義・記念パーティー、丸山監督引退試合についてはしっかりと形に残すべく、出来るだけ多くの写真を盛り込みました。

どのような組織におきましても、世代交代は大きな課題のひとつです。東京理科大学ソフトボール部はその節目を乗り越え、新たなスタートを切っております。次はOB会の番です。40周年記念企画に携わった若手OBが先輩・同期・後輩を巻き込み、「熱意と誠意は人心を動かし協力を生む」、「良いことに上限はない」、この言葉を胸に50周年という大きな節目に向けて、現役支援体制をより一層充実させていきたいと考えております。

この記念誌作りにかかわっていただいた先生方、OB・OG諸氏、現役部員、応援団の皆様、そして多大なご協力をいただいた株式会社ハイグラフィック様、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

40周年記念誌編集責任者 森高 紘平
(東京理科大学ソフトボール部OB会常任幹事)

◆先生方をはじめOB・OGの皆様、記念誌編集にご協力いただき、本当にありがとうございました。編集長という大役をいただいたこと、とても幸せに思います。

本誌制作にあたり、東京理科大学ソフトボール部の強い“繋がり”を改めて実感しました。先輩方の連携の強さ、現役部員の協力が、ソフトボールという一つの共通点でたくさんの人が繋がり、守り続けられたチームの証であると感じました。40年の歴史の中で、私が直接かかわったのは6年間で、しかし、この先50年、100年と続くチームに本誌を残せること、そしてこのような居場所があることを嬉しく思います。

編集長
渡辺 舞
(第37代)



◆理科大ソフトボール部の40周年記念誌が完成することが出来たことを記念誌編集に携わったものとして大変嬉しく思っております。

この10年間は丸山先生から柳田先生への移り変わりの期間となりました。理科大ソフトボール部においても伝統を引き継ぎ、より良いものを新たに生み出すとても大事な期間だったのだらうと私は感じています。

これからは、さらに新たな技術やより細かい分析、戦術をしていき、日本一を目指して頑張っていくと欲しいと思います。この40周年という節目に現役責任者として記念誌制作に携われたことを誇りに思います。

現役責任者(正)
大江 雄登
(第39代)



◆40周年という節目の年に、記念誌編集に携わる機会をいただけたことを大変感謝しております。

これから東京理科大学が日本一を獲るために、分析力が鍵となってきます。記念誌のコンテンツを作っていく中で、40年分の歴史がきれいに記録として残っていることに、素直に感動しました。

先輩方から脈々と受け継がれてきた記録は、かけがえのない贈り物です。現役部員だけで戦っているわけではない。「100年かかって日本一」の意味が少しでも分かった気がしました。そして私自身も紡がれてきた40周年の一部となれたことを誇りに思います。

現役責任者(副)
朝平 峻行
(第40代)



◆この記念誌制作に関わったことで、過去の成績や環境を調べることが多々ありました。制作にあたって、中身の濃い40年間を知ることができ、入部してまだ2年も経ちませんが、40周年という歴史を作り上げてきた先輩方の素晴らしさを感じることができました。

また、OB会の支えがあり、現役部員が連携することで歴史と伝統が作られていくのだと、記念誌を残す立場になり、実感できました。50周年という大事な節目を迎えるためにも、人とのつながり、感謝を大事にしていこうと思いました。

編集委員
菅原 侑
(第41代)



**日本一のロマンを求めて
～100 年かかっても日本一を 夢の継承～
東京理科大学体育局ソフトボール部 創部 40 周年記念誌**

発 行 日	2018 年 3 月 26 日
発 行 所	東京理科大学ソフトボール部 O B 会 〒278-0022 千葉県野田市山崎 2641
編集責任者	森高 紘平
印 刷 所	株式会社ハイングラフィック 〒950-2022 新潟県新潟市小針 1-11-8

